

習得レベルの言語活動

— 表現させるためのDrill・Practiceの指導の工夫 —

榎葉みつ子

(広島大学)

1. はじめに

十分に教えたはずの文法を、その後の言語活動で生徒が使えていないといった場合、原因のひとつに、生徒にその文法を使う練習を十分にさせていなかったことが考えられます。

村野井 (2011) は、「文法の形・意味・使用／機能を理解したからと言って、すぐにコミュニケーション活動に挑戦させるのは、多くの場合無理が伴う。文法事項の機能を確認しながらも、形式的な操作力を高めることができるコンテキスト化されたドリル (contextualized drill) を行って言語知識の自動化を促し、コミュニケーション活動の足固めをする必要がある。」と述べ、ドリルの重要性を説いています。

文法はきまりについての知識ですから、知っている状態から、使える状態になるためには、使う練習が必要です。自動車の運転ができるようになるためには、考えながらアクセルやブレーキを踏む練習をする段階を経なければなりません。文法も同じことで、練習を経てこそある程度使いこなせるようになるのです。

文法が言語活動で使えていない場合に考えられるもう一つの原因は、言語活動と関係なく、文法の形式だけを単独で教師が指導していることです。物事はできるだけ実際に近い状態で学ぶのがよいとされています。学びやすい上に、学んだことが生かされやすいからです。言語活動の中で使わせながら、形式のみに重点を置かず、場面や機能や意味を組み合わせて文法を指導することは、練習の段階でも意識されねばなりません。

NEW CROWN の GET のパートに掲載されてい

る Drill や Practice は、文法事項の習得のために用意された練習や言語活動ではありますが、その内容は、生徒自身の考えや気持ち、事実、意見を話したり書いたりして表現させることができるものになっています。文法指導と言語活動とが効果的に関連付けられていると言えます。そのねらいを生かすためには、どのようなことに配慮すればいいのかを、次の実践例で示します。

2. 実践例 (NEW CROWN Book 1 Lesson 7 GET Part 1)

《目標》助動詞 can を正しく使って、特技で人のために役立とう宣言をする。

(1) Drill



(英文)

- A) Koji can play the piano.
- B) Tom can play the guitar.
- C) Miki can play soccer well.
- D) Amy can paint pictures well.

(板書)

Koji can play the piano.
 { play the guitar
 play soccer well
 paint pictures well }

指導手順

① 導入 — 文構造を意識させる —

・基本文を板書して、置換する部分 (主語とできること) に下線を引く。

・語句の難易度によって、A～Dの絵を指しながら、play the piano, play the guitar, play soccer well, paint pictures well等を板書し、発音練習をさせる。

② Listen ー音声に注意を向けさせるー

・CDを聞いて英文の意味を考えたり、頭の中でその音声を再現したりさせる。

③ Repeat ー音声を再現させるー

・音声に注意してCDを聞かせ、まねて繰り返させる。

④ Say ー文法を使う練習をさせるー

・次の手順で、CDに合わせて行う。

CD: (置換部分のみ示す)

Koji, play the piano

Ss: (置換して文全体を言う)

Koji can play the piano.

CD: (置換した正しい文を示す)

Koji can play the piano.

Ss: (先の自分の発話と比べながら文を言う)

Koji can play the piano.

(以下B,C,Dの絵についても同じ要領で行う。)

⑤ Write ー文字で再現させるー

・英文を1回ずつ書かせる。教師が指定した時間(1分間など)の間に、生徒個人で絵や板書を見ながら書けるだけ書くようにさせる。

解説

この活動では、得意なことを表現するという目標達成のために、段階的に文法を使う練習をさせている。主眼はSayでの置換練習である。文のどの部分にどのような語句が使われるのかに注意を向けさせる置換練習は、語順や品詞の知識が十分でない初学者には特に必要である。しかし、機械的でもあるため、集中が途切れないようにリズムに乗せてテンポよく行う必要がある。最後のWriteは、省略することもできるが、短い時間に書く習慣づけをすると、それなりに速く書けるようになる。いずれにしても、あれこれ説明せずに短時間で行う。CDを利用して行えば、所要時間は3分程度である。

(2) Practice

指導手順

① Word Corner ーいろいろな動作の英語表現ー

・あとで得意なことを表現させるための準備として、教科書の例以外のものも含めて発音練習させる。

② Listen ー得意なことの発表例ー

・発表の際の参考とさせるため、どのような説明を付け加えているのかも含めて、文脈の中で得意なことを聞きとらせる。

③ Speak ー特技で人のために役立つ宣言ー

・教師が自分のことを話したり、生徒のだけれど話し合ってみせたりして、活動に対する興味や見通しをもたせる。

・特技を発表し合うという活動の意義を説明する。

・話す内容について少し考えさせる。準備は単語のメモ程度にとどめさせる。

・ペアになって話し合わせる。その際、話し手はI like music. I like cooking.などの説明を加えるように、聞き手は、話をよく聞いて、内容を繰り返して確認したり感想を述べたりするようにさせる。

④ Write ー得た情報を書いて伝えるー

・ペア以外のだれかに読んでもらうために、知ったことを英文でワークシートやノートに書かせる。

・書いたものを交換させて、互いに読み合わせて、感想を日本語で言わせたり書かせたりする。

解説

助動詞canを使わせるための練習にならないよう、人に役立つために特技を用いることを宣言するという活動に変えた。表現につなげるための一連の活動なので、最後に話すことや書くことに向けて、活動と活動とを関連付けるようにする。

3. おわりに

言語活動の指導には、場の設定や段階的な指導が重要です。NEW CROWNのGETのパートにある習得レベルのDrillとPracticeにも、実践例のような工夫を加えると、自分の考えや気持ち、事実、意見を表現するための練習及び言語活動となり、次の活用レベルに発展させることができるでしょう。

【参考文献】

村野井仁(2011)。「新学習指導要領における文法指導ー文法指導に関する5つの誤解ー」『英語教育』10月号, pp.10-12.